

課題別評価表(4)

取組課題 授業研究推進	担当名・指導部名／担当者名 研修担当／井ノ口 徹	評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象の幅は異なる)
取組の柱 1 全校体制での授業研究推進 【研究主題】 「仲間と共に学び、コミュニケーション力を高め合う子どもの育成 ～教材の特性を生かし、活用力を育てる国語科授業づくり～」 2 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた指導の充実	実態把握 子どもたちを取り巻く社会では、日常生活におけるコミュニケーションの欠如と人間関係の希薄化が加速し、様々な社会問題が起きている。そのような社会的背景からも、子どもたちがコミュニケーション力を身につけることは非常に大切であると捉え、コミュニケーション力の育成に重点を置いた教育活動に取り組んできた。 子どもたちのコミュニケーション力(①相手に対する思いやりの心②相手の言いたいことを推測し、的確に理解する力③自分の考えを相手に的確に伝える論理力)は、今後も重点的に育成していく必要がある。 また、学習内容の基礎・基本をより確実に定着させることや、コミュニケーションを図る際に必要な読解力や思考力・判断力・表現力なども高めることが必要である。	達成度の判断基準	教職員の評価の平均 A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満

評価項目 (具体的な取組)	評価基準	達成度 ※網掛けは昨年度			
		中間	中間	年度末	年度末
1(1) コミュニケーションを大切にした授業づくりを行う。教材の特性を踏まえた授業を考え、年間を通して、継続的に取り組む。	教材の特性を「教材研究シート」にまとめ、それを生かした授業を組み立てることができた。(研究授業前に、教員による事前研究会で検証する。)	A	A	A	A
1(2) コミュニケーションを大切にした授業づくりを行う。コミュニケーションを生み出す、「具体的な手立て」などを考え、年間を通して、継続的に取り組む。	「コミュニケーションを生み出すための具体的な手立て」を考え、授業の中で取り組むことができた。(研究授業後に、教員による事後研究会で検証する。)	A	A	A	A
1(3) 「授業が変われば子どもも変わる」という観点から、「授業をもっと楽しく魅力的にするために、授業研究を進める。	全教員が年間1回以上、公開研究授業及び事後研究会を実施し、年間5回以上、他の教員の授業を参観し、事後研究会に参加した。	A	A	A	A
2 全国学力・学習状況調査の結果等をもとに、学習面や生活面の長所や課題について全教員で共通理解を図り、学年の実態等に応じた取組を進める。	学力向上委員会を年間3回以上開催した。(学力向上委員会では、「書くこと」に関する指導方法、「南が丘スタンダード」の取組などについて交流及び検討する。)	A	A	A	A

達成度については、 A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		次年度への申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
1(1)(2) 事前研究会では、全教員がグループに分かれて教材分析し、「教材研究シート」にまとめた。教材の特性について考え、適切な学習課題を設定できて、生み出したい子どもの考えも明確になった。事後研究会では、「コミュニケーションを生み出すための具体的な手だて」について考え、話し合った。各教員が研究会で学んだことを生かし、各学級にコミュニケーションの深まりが生まれてきている。 1(3) 年度初めに研究授業の年間計画を立てた。それに従い授業研究を進めてきている。 2 過去の学力調査の分析から明らかになった課題の改善に向け、学年ごとに『「書くこと」の重点指導計画表』を作成し、それをもとに指導を行ってきた。	A	1(1)(2) 事前研究会では、全教職員がグループに分かれて教材分析し、「教材研究シート」にまとめた。教材の特性について考え、適切な学習課題を設定できて、生み出したい子どもの考えも明確になった。事後研究会では、「コミュニケーションを生み出すための具体的な手だて」について考え、話し合った。各学級でペア対話やグループ対話などを効果的に取り入れている。 1(3) 年度初めに研究授業の年間計画を立てた。それに従い授業研究を進めてきている。「質問タイム」、「ほめ言葉のシャワー」、「ピブリオバトル」、「日直のスピーチ」など学年学級の実態に応じた取り組みも行っている。 2 過去の学力調査の結果の分析から明らかになった課題の改善に向け、学年ごとに『「書くこと」の重点指導計画表』を作成し、それをもとに指導を行ってきた。また、算数科の記述で重要となる用語や言葉についても考え、話し合った。	A	1(1) 教材の特性に迫る授業案を考え実践していく。 1(2) コミュニケーション力を育てていく上で重要となる、思考力・判断力・表現力を育てていく指導を研究していく。 1(2) コミュニケーション力を育てていく上で基礎となる、子どもたちの語彙力を増やす工夫をしていく。

総合評価については、 A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間